

献腎移植事例報告

土方仁美

財団法人秋田県臓器移植推進協会

日本臓器移植ネットワークが発足した平成7年から11年度末までの間、東北ブロックではブロック内22腎の提供と他ブロックから12腎の移入により、32名が献腎移植を受けた（図1）。このうち当県在住者の献腎移植例3例を報告する。

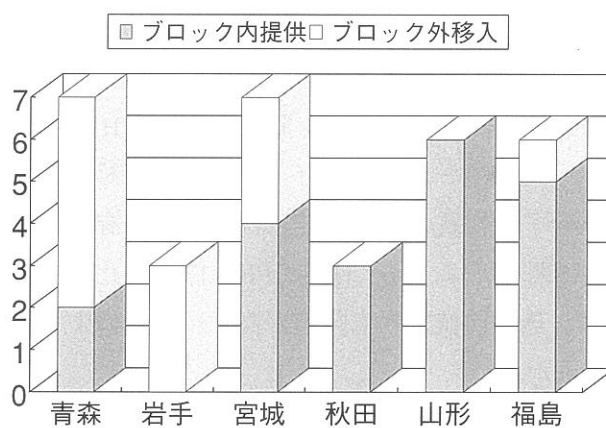


図1 献腎移植件数（東北）

症例1は、平成7年12月ブロック内にて行われた献腎症例で、提供者は40代女性、原疾患は脳出血。当時の東北北海道ブロック内でのレシピエント選定の結果、1位秋田、2、3位北海道在住者が選ばれ、クロスマッチテストの結果、1、3位候補者が受けることとなった。1位の当県在住移植者は50代女性で提供者のご姉妹。提供者家族の意向に沿い、移植者と決定した。第1希望施設の仙台社会保険病院で移植を実施し、一度は透析から離脱した生活を送られたが、自己管理不良にて平成9年に移植腎機能廃絶、透析再導入となり、平成12年に入り亡くなられた。

症例2は、平成11年11月ブロック内での献腎症例で、提供者は交通事故による頭部外傷で脳死に陥ってしまった20代男性（図2）。レシピエントとなった当県在住待機患者は、20代男性、透析歴2年4ヶ月、待機期間265日であった（図3）。第1希望施設の秋田大学で移植を実施することとなり、当県在住待機患者が県内の施設で献腎移植を実施した最初の症例となった。移植までの流れは、提供者のご家族から提供承諾書を受領後、提供者の血液をHLA検査センターへ搬送し、HLAタイピングを実施。その結果を基にネットワークコンピュータにて移植者を選定。深夜0時に移植医から移植候補者に対し受けるかどうか意思を確認。クロスマッチテストを経て朝8時に移植者と確定し、患者は入院の準備、職場への連絡を済ませ、10時に家族と共に移植施設に到着。その後、入院や手術に関する説明を医師や看護婦から、摘出腎の搬送予定や費用について移植コーディネーターから説明を受け準備に入った。提供された腎搬送は移植コーディネーターが担当、摘出腎情報や搬送状況について移植施設と連絡を取り合い19時20分移植手術開始。20時30分腎到

着し、23時22分血流再開、手術は翌日深夜1時30分に終了した（図4）。移植後、経過は良好で2週間で透析離脱、2ヶ月で退院、社会復帰された。

提供年月	: 平成11年11月
提供病院	: 東北ブロック内
提供者	: 20代男性 交通事故による頭部外傷
移植候補者	: 1 青森→クロスマッチ(+) 2 福島→移植(左) 3 秋田→移植(右)

図2 症例2ドナー

移植者	: 秋田県、20代、男性 透析歴2年4ヶ月 待機期間265日
移植病院	: 秋田大学医学部附属病院
HLAマッチ数	: 2-1 (DR-A, B)
全阻血時間	: 9時間23分
予後	: 良好(社会復帰)

図3 症例2レシピエント

提供病院	ネットワーク	移植病院
ドナー情報	→ CO派遣	
CO家族面談	←	
承諾、採血	→ 血液搬送 HLA、感染症検査	
	移植候補者選定	→ 移植候補者意思確認 (0:00)
	クロスマッチ	→ 移植者確定 (8:00)
心停止(検視)		入院 (10:00)
腎摘出術開始		準備 (HD15:00 ~18:00)
腎摘出	→ 腎搬送	腎移植術開始 (19:20)
終了		腎到着 (20:30)
		血流再開 (23:22)
		終了 (1:30)

図4 症例2経過

症例3は、同年11月ブロック内の病院で60代男性から提供があり、レシピエント選定の結果、1、3位が秋田、2位宮城県在住者でクロスマッチは陰性であったので、上位2名が移植者となった。当県在住移植者は60代男性で透析歴11年11ヶ月、待機期間1,851日。

移植後の経過は良好である。

移植後、提供者のご家族には移植コーディネーターから厚生大臣の感謝状をお渡しすると共に、移植が無事終了したことを報告している。また症例2の提供者家族に対しては、移植者から退院後、1年後に2通の感謝の手紙もお渡ししている。

献腎移植の場合、生体腎移植と異なり移植機会がいつ訪れるか分からず、待機患者が透析中などの場合には直接透析室へ連絡が入る可能性もある。連絡から移植手術までが短時間であるため、家族の協力、職場の理解、透析スタッフの支援が待機患者の日頃からの心構えや体調管理への大きな支えになると思われる。

参 考 文 献

- 1) (社) 日本臓器移植ネットワーク東北ブロックセンター、献腎移植記録、1995-1999